

F-51

太政官御布告第貳拾四號

陸軍治罪法

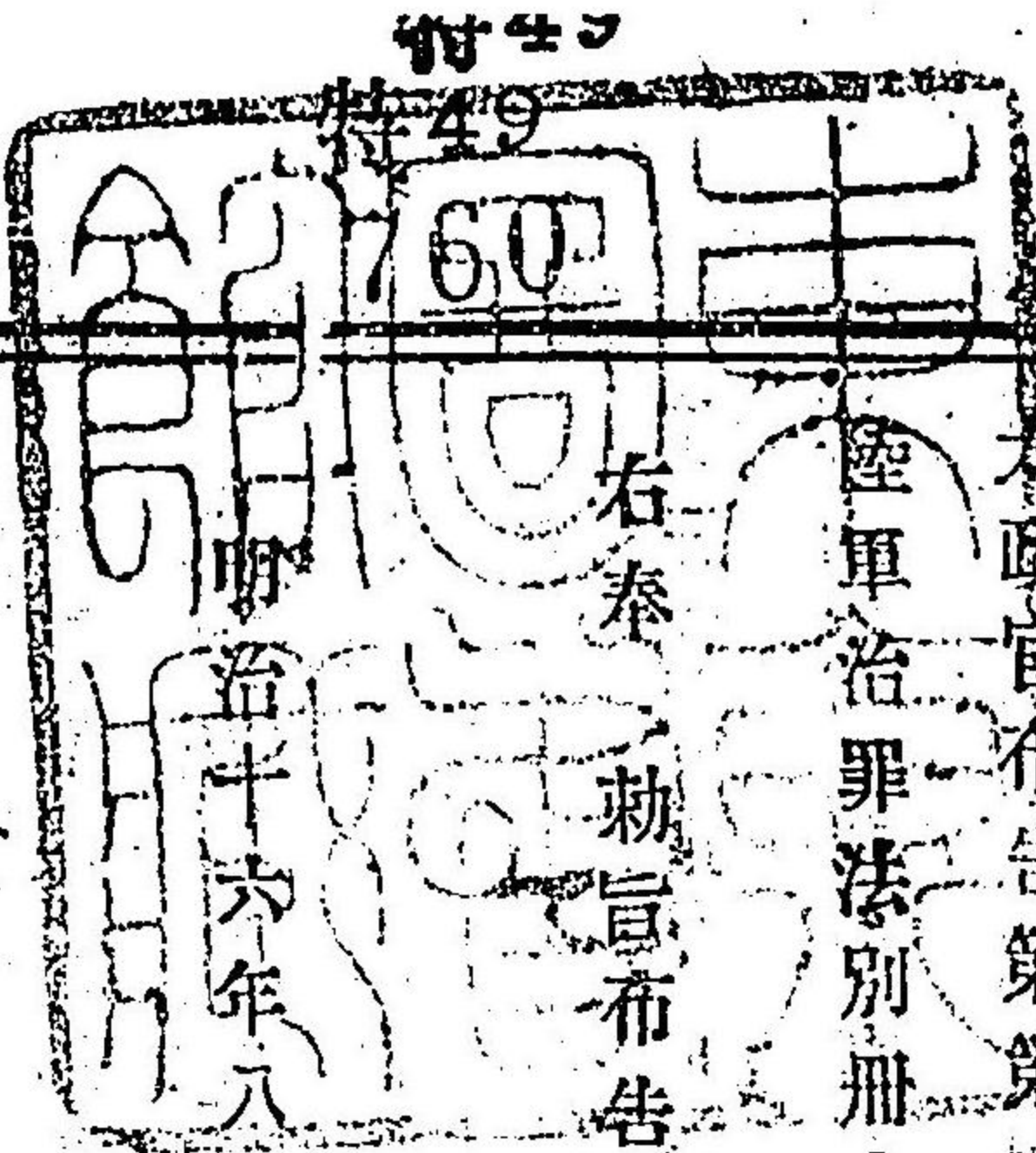
明治十七年三月

廣道館發兌



館刊

C2
691
019



大政官布告第貳拾四號
陸軍治罪法別冊之通制定シ明治十六年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス

右奉 勅宣布告候事

明治十六年八月四日

大政大臣 三條實美
陸軍卿 大山 巖

陸軍治罪法目録

第一章 總則

第二章 軍法會議ノ構成

第三章 軍法會議ノ權限

第四章 陸軍檢察

第五章 審問

第六章 判決

陸軍治罪法

第一章 總則

第一條 陸軍軍人ノ犯シタル重罪輕罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス
軍法會議ハ刑事附帶ノ民事ヲ受理セス但官物ノ損害ニ係ルノ賠償ハ此
限ニ在ラス

第二條 軍法會議ハ傍聽ヲ許サス但共宣告ヲ爲ス時ハ軍人ニ限り之ヲ許
ス

第三條 軍人ト稱スルハ陸軍刑法第三條第九條ニ掲クル者ヲ謂フ

第四條 司令官ト稱スルハ軍團長師團長旅團長軍管司令官營所司令官及
ヒ合圍ノ地ノ司令官ヲ謂フ

第五條 普通治罪法第九條第十一條第十三條第十四條第十八條第百條第
百一條ノ規則ハ此治罪法ニ於テモ之ヲ適用ス

第六條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ軍法會議ニ於テ審判ス可
キ時ノ外軍人ノ例ニ依ルコトヲ得ス

第二章 軍法會議ノ構成

第七條 軍法會議ハ各軍管ニ一箇若クハ數箇ヲ設ク

軍中ニ於テハ軍團師團旅團ニ軍法會議ヲ設ケ合圍ノ地ニモ亦軍法會議
ヲ設ク

第八條 軍法會議ニハ判士長判士理事理事補審事審事補錄事ヲ置ク

第九條 軍法會議ハ佐官一名ヲ判士長ト爲シ尉官三名理事理事補ノ内一
名ヲ以テ判士トス但被告人准士官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ左
ノ表ニ照シテ判士長判士ヲ更フ

判士長	判士	被告
佐官一名	尉官一名	陸海軍少尉准士官及ヒ同等ノ軍人軍属
佐官一名	尉官一名	陸海軍中尉及ヒ同等ノ軍人軍属
中佐一名	大尉一名	陸海軍大尉及ヒ同等ノ軍人軍属
中佐一名	大尉一名	陸海軍少佐及ヒ同等ノ軍人軍属
大佐一名	大尉一名	陸海軍少佐及ヒ同等ノ軍人軍属
少將一名	大尉一名	陸海軍中佐及ヒ同等ノ軍人軍属
中將一名	大尉一名	陸海軍大佐及ヒ同等ノ軍人軍属
中將一名	大尉一名	陸海軍大佐及ヒ同等ノ軍人軍属
大將一名	大尉一名	陸海軍中將及ヒ同等ノ軍人軍属

大將一名	大將一名	陸海軍大將及ヒ同等ノ軍属
中將一名	大將一名	陸海軍大將及ヒ同等ノ軍属
中將一名	大將一名	陸海軍大將及ヒ同等ノ軍属
少將一名	大將一名	陸海軍大將及ヒ同等ノ軍属
大佐一名	大將一名	陸海軍大將及ヒ同等ノ軍属
中佐一名	大將一名	陸海軍大將及ヒ同等ノ軍属
中佐一名	大將一名	陸海軍大將及ヒ同等ノ軍属
大佐一名	大將一名	陸海軍大將及ヒ同等ノ軍属
少將一名	大將一名	陸海軍大將及ヒ同等ノ軍属
中將一名	大將一名	陸海軍大將及ヒ同等ノ軍属
中將一名	大將一名	陸海軍大將及ヒ同等ノ軍属
大將一名	大將一名	陸海軍大將及ヒ同等ノ軍属

第十條 將官ヲ以テ判士長判士ト爲ス時ハ陸軍卿ノ奏請ニ依リ上裁ヲ以テ之ヲ命ス

佐官ヲ以テ判士長判士ト爲ス時ハ陸軍卿之ヲ命ス尉官ヲ以テ判士ト爲ス時モ亦同シ

第十一條 軍團長及ヒ獨立師團長ハ部下ノ將校ニ其軍法會議ノ判士長判士ヲ命スルコトヲ得又理事審事缺員スル時ハ部下ノ將校ニ命シテ其職務ヲ行ハシメ錄事缺員スル時ハ下士ニ命シテ其職務ヲ行ハシムルコトヲ得

臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其司令官部下ノ將校若クハ其地ニ在ル將校中ヨリ撰ミ專任判士ヲ置キ被告人ノ官等ニ拘ハラス之ヲ審判セシム但將校缺乏ノ場合ニ於テハ他ノ官吏ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得

第十二條 軍管軍法會議ニ於テ判士長判士ニ充可キ將校缺員スル時ハ軍

管司令官ノ上申ニ依リ陸軍卿他ノ將校ヨリ之ヲ命シ若クハ被告人ヲ他ノ軍法會議ニ移シテ其審判ヲ爲サシム

第三章 軍法會議ノ權限

第十三條 軍法會議ハ其軍管若クハ師管ノ所管地方ヲ以テ管轄ト爲ス

第十四條 軍人管轄地外ニ於テ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ其地ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得

第十五條 軍人數箇ノ軍法會議ノ管轄地内ニ於テ重罪輕罪犯シタル時ハ被告人ヲ逃捕シタル地ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第十六條 軍團師團旅團軍法會議ハ其團所屬軍人ノ犯シタル重罪輕罪ヲ審判ス

第十七條 俘虜洋人ノ犯シタル重罪輕罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第十八條 軍人任官若クハ就役ノ前罪ヲ犯シ在官現役中發覺スル者ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス其在官現役中罪ヲ犯シ免旨若クハ免役ノ後發覺スル者ハ司法裁判ニ付ス

歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者召集中罪ヲ犯シ若クハ舊罪發覺スル者ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス其召集中ノ犯罪解散ノ後發覺スル者ハ司法裁判ニ付ス

第十九條 軍人二人以上共ニ重罪輕罪ヲ犯シ各其管轄ヲ異ニスル時ハ先キニ審問ニ著手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス海軍軍人軍屬ト其犯ニ係ル時モ亦同シ

第二十條 軍人ト軍人ニ非アラサル者ト共ニ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二十一條 陸軍刑法ノ罪ヲ犯シタル者ハ軍人ニ非スト雖モ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス餘罪俱ニ發シタル者モ亦同シ

第二十二條 軍法會議ハ重罪輕罪ト俱ニ發シタル違警罪モ亦之ヲ審判ス

第二十三條 軍中若クハ合團ノ地ノ軍法會議ヲ廢スルニ當リ既ニ審判ニ著手シタル者ハ陸軍卿ノ指定スル軍法會議若クハ其事件ヲ管理ス可キ官司ニ送致ス可シ

第四章 陸軍檢察

第二十四條 陸軍檢察ハ陸軍ニ關スル犯罪ヲ捜査シ證據ヲ拾収ス

第二十五條 左ニ記列スル諸官ハ司令官ノ命令ヲ受ケテ陸軍檢察ノ職務ヲ行フ

要塞副官若クハ衛戍副官

憲兵ノ將校下士

衛兵司令

砲兵工兵ノ監護

第二十六條 要塞司令官次官衛戍司令官諸隊長分遣隊長及ヒ各所管ノ長官ハ各其管スル所ノ事ニ就キ犯罪アルコトヲ知リタル時ハ自ラ陸軍檢察ノ處分ヲ爲シ若クハ陸軍檢察官ニ委シテ其處分ヲ爲サシムルコトヲ得審事其職務ヲ行フノ際現行犯アルコトヲ知リタル時ハ自ラ陸軍檢察ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪ニ因リ損害セラレタル者ハ犯罪ノ

地若クハ被告人所在ノ地ノ陸軍檢察官被告人所属ノ長官隊長若クハ司法警察官ニ告訴スルコトヲ得

第二十八條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタル時ハ第二十七條ニ記載シタル官吏ニ告發スルコトヲ得

第二十九條 陸軍所属ノ官吏職務ヲ行フニ因リ軍人ノ重罪輕罪ヲ犯ス者アルコトヲ知リタル時ハ其職務ヲ行フ地ノ陸軍檢察官若クハ被告人所属ノ長官隊長ニ告發ス可シ

第三十條 軍人ノ重罪輕罪現行犯アル時ハ何人ヲ論セス直ニ之ヲ逮捕スルコトヲ得

其犯罪人ヲ逮捕シタル者ハ之ヲ陸軍檢察官司法警察官憲兵卒若クハ巡查ニ交付ス可シ

第三十一條 司法警察官憲兵卒及ヒ巡查現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタル時ハ速ニ之陸軍檢察官ニ引致ス可シ

第三十二條 司法警察官軍人ニ係ル告訴告發ヲ受ケタル時ハ速ニ陸軍檢

察官若クハ被告人所属ノ長官隊長ニ交付ス可シ

第三十三條 告訴人告發人ハ願下ヲ爲シ若クハ其陳述ヲ變更セシムトテ
請求スルコトヲ得

第三十四條 陸軍檢察官軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル時
ハ直ニ犯所ニ臨檢シ犯罪人ヲ逮捕シ訊問ヲ爲シ其調書ヲ作ル可シ
其引致ヲ受ケタル時モ亦同シ

第三十五條 陸軍檢察官要塞司令官次官衛戍司令官諸隊長分遣隊長各所
管ノ長官檢察ノ處分ヲ爲シタル時ハ調書ヲ作り證憑又書ヲ添ヘ之ヲ司
令官ニ具申ス可シ

第五章 審問

第三十六條 司令官被告事件ノ具申ヲ受ケタル時ハ左ノ諸項ヲ受ケノ外
事件ノ難易ニ從ヒ理事ニ下付シ審事ヲシテ其審問ヲ爲サシメ若クハ直
ニ其判決ニ付ス可シ
被告人上長官以上ナル時ハ軍管司令官ハ之ヲ陸軍卿ニ具申ス可シ

營所ニ於テ被告人士官以上ナル時ハ營所司令官之ヲ軍管司令官ニ具申
ス可シ

第三十七條 陸軍卿審問ノ命令ヲ下ス時ハ其事件ヲ司令官ニ交付シ司令
官ハ之ヲ理事ニ下付ス可シ

第三十八條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其地ノ司令官被告人ノ官等ニ
拘ハラス直ニ其審問ノ命令ヲ下スコトヲ得

第三十九條 審事審問ヲ爲ス時ハ先ツ召喚狀ヲ發ス其被告人出廷シタル
時ハ即日之ヲ訊問ス可シ

第四十條 審事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セサル時ハ勾引
狀ヲ發スルコトヲ得

第四十一條 審事ハ重罪被告人ニ對シ又ハ其他ノ被告人罪證ヲ湮滅シ若
クハ逃走ノ恐アル時若クハ未遂罪脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂クルノ
恐アル時ハ直ニ勾引狀ヲ發ス可シ

第四十二條 審事其召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ク可キ被告人遠隔ノ地ニ在

ル時ハ其他ノ陸軍檢察官若クハ審事若クハ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十三條 審事ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受メル被告人疾病其他正當ノ事故アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタル時ハ其所在ニ就テ之ヲ訊問スルコトヲ得若シ被告人遠隔ノ地ニ在ル時其地ノ審事若クハ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十四條 審事ハ被告人ノ所在ヲ覺知スルコト能ハサル時ハ理事ヲ經テ之ヲ司令官ニ具申ス可シ
司令官ハ各軍管司令官營所司令官及ヒ各控訴裁判所ノ檢事長ニ人相書ヲ送り其逮捕ヲ求ム可シ

第四十五條 審事ハ被告禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト認メタル時ハ収禁狀ヲ發スルコトヲ得
収禁狀ヲ發シタル後若シ被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト認メタル時ハ収禁狀ヲ發スルコトヲ得
其収禁ヲ要セサル者ト認メタル時ハ収禁狀ヲ解ク可シ

第四十六條 審事ハ實事審明ノ爲メ臨檢家宅搜索物件押収ノ處分ヲ爲スコトヲ得其處分ヲ爲ス時ハ錄事之ニ會同シ調書ヲ作ル可シ
若シ其場所遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ審事若クハ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十七條 審事ハ事實審明ノ爲メ驛遞電信鐵道ノ官署及ヒ諸會社ニ事由ヲ通知シテ被告人ニ關係アル往復文書電報及ヒ物件ヲ收受開披スルコトヲ得若シ其場所遠隔ノ地ニ在ル時ハ第四十六條第二項ノ例ニ依ル

第四十八條 審事ハ證人及ヒ通事ヲ呼出スルコトヲ得
證人皇族若クハ勅任官ナル時ハ審事其所在ニ就テ陳述ヲ聽ク可シ
證人疾病其他正當ノ事故アリテ呼出ニ應ル能ハサルコトヲ證明シタル時ハ審事其所在ニ就テ之ヲ訊問ス可シ
證人若シ遠隔ノ地ニ住スル時ハ其他ノ審事若クハ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十九條 審事ハ被告人及ヒ證人ノ訊問ヲ爲ス時ハ錄事之ニ會同シ調

書ヲ作り訊問及ヒ供述ヲ録取シ被告人若クハ證人ニ讀示セシメ其陳述
シメ所ニ違ハサルヤ否ヤ問ヒ署名捺印セシム若シ署名捺印スルコト能
ハカル時ハ其旨ヲ記ス可シ

被告人及ヒ證人ハ其陳述ヲ變更増減センコトヲ請求スルコトヲ得

第五十條 審事ハ犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定人
ヲ要スル時ハ學術又ハ職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得可キ者ニ命シテ其
鑑定ヲ爲サシム可シ

鑑定人ハ鑑定書ヲ作り其方法結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記シ若
シ結果ヲ得カル時ハ其推測スル所ヲ記シ署名捺印ス可シ

第五十一條 審事ハ證人鑑定人通事正當ノ事故ヲ證明セスシテ其呼出ニ
應セカル時ハ二圓以上拾圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ但審事ハ其證人ニ對
シ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

證人陳述ヲ肯セカル時ハ普通刑法第百八十條ニ依リ又鑑定人鑑定ヲ肯
セカル時ハ普通刑法第百七十九條ニ依リ罰金ヲ科ス可シ

第五十二條 證人鑑定人通事ニ罰金ヲ科スル時ハ普通刑法第二十七條ニ
從フ但罰金ヲ禁錮ニ換フル時亦審事之ヲ命ス

第五十三條 審事審問ニ於テ餘罪ヲ覺擧シタル時ハ直ニ本件ト共ニ審問
ス可シ

共犯覺擧シタル時ハ理事ヲ經テ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

第五十四條 審事審問ヲ終リタル時ハ其報告書ヲ作り意見書ヲ添へ訴訟
文書ト共ニ之ヲ理事ニ交付シ理事ハ意見書添へ之ヲ司令官ニ上申スヘ
シ

第六章 判決

第五十五條 司令官ハ軍法會議ヲ開ク可キ命令書ヲ判士長ニ下シ其謄本
ヲ訴訟文書ト共ニ理事ニ下付シ理事ハ之ヲ判士長ニ交付シ會議ノ日時
ヲ判士ニ通報ス可シ

第五十六條 軍法會議ヲ開ク時ハ判士長判士録事各其席ニ著キタル後判
士長被告人ヲ出廷セシム

判士長ハ先ツ被告人ノ官位勳等階職職名氏名族籍年齢ヲ問ヒ訊問爲ス
ノ旨ヲ告示シ録事ヲシテ審事ノ報告書ヲ朗讀セシム
其朗讀終リタルノ後判士長ハ被告事件ヲ訊問シ若クハ判士ニ命シテ其
訊問ヲ爲カシム

第五十七條 判士長ハ開廷ヨリ判決ニ至ルマテ令狀ヲ發スルコトヲ得
判士長ハ法廷ニ於テ警戒ノ爲メ其處置ヲ爲スコトヲ得

法廷ニ於テ罪ヲ犯ス者アル時ハ判士長其處分ヲ爲シ若クハ判士ニ命シ
テ其處分ヲ爲カシム可シ

法廷ニ於テ證人鑑定人及ヒ通事ヲ要スル時ハ第五章ノ例ニ依ル

第五十八條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人出廷ノ命ニ應セサル時ハ之
ヲ引致ス可シ但疾病若クハ正當ノ事故ニ因リ出廷スル能ハサルコトヲ
證明シタル時ハ判士長ハ其審判ヲ延期スルコトヲ得

第五十九條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人逃走シテ審事ノ日時ニ出廷
セス若クハ逃走シテ召喚狀ヲ送達スルコトヲ得サル時ハ闕席裁判ヲ爲

ス可シ

第六十條 罰金ノ刑ニ該ル可キ被告人召喚狀ヲ受ケ審判ノ日時ニ出廷サ
ル時ハ欠席裁判ヲ爲ス可シ

第六十一條 數人共犯ノ審判ヲ爲ス時ハ被告人中欠席シタル者アリト雖
モ出廷シタル者ニ對シ審判ヲ爲ス可シ

第六十二條 判士長ハ被告人ヲ尋問シタル後證人ヲ尋問シ若クハ判士ニ
命シテ尋問セシム可シ

證人ノ陳述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト認メタ
ル時ハ判士長ハ収禁狀ヲ發シ更ニ尋問ヲ爲シ若クハ判士ニ命シテ尋問
ヲ爲カシメ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

其處分ヲ爲シタル時ハ判士長ハ本件ノ審判ヲ延期スルコトヲ得

第六十三條 法廷ニ於テ更ニ檢證ノ處分ヲ要スルコトアル時ハ判士長ハ
其處分ヲ爲シ若クハ判士ニ命シテ其處分ヲ爲カシム可シ
法廷ニ於テ共犯ヲ覺舉シタル時ハ判士長ハ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

若シ餘罪ヲ覺舉シタル時ハ本件ト共ニ其審判ヲ爲ス可シ但判士長ハ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

第六十四條 被告人及ヒ證人ノ訊問終リタル時ハ判士長ハ更ニ被告人ニ對シ他ニ陳述ス可キ事件ナキヤ否ヲ問ヒ尋問終リタルノ旨ヲ告ケ被告ハヲ退廷セシム可シ

第六十五條 判決書ハ判士事實ト法律トニ依リ左ノ條件ニ照シテ之ヲ作リ判士長判士録事共ニ署名捺印シ判士長之ヲ理事ニ交付ス理事ハ訴訟文書ヲ添ヘ之ヲ司令官ニ上申ス可シ

- 一 有罪ノ判決書ニハ犯罪ノ證據及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條ヲ記ス
- 二 無罪ノ判決書ニハ被告事件罪ト成ラサルコト及ヒ其理由ヲ記シ犯罪ノ證據備ハラサル時ハ其旨ヲ記ス
- 三 免訴ノ判決書ニハ公訴ノ期滿免餘ト爲リタルコト大赦アリタルコト法律ニ於テ其罪ヲ全免スルコト及ヒ其理由ヲ記ス

四 被告人ノ官位勳等隊號職名氏名族籍年齢住所ト軍會法議判決ノ年月日ヲ記ス

第六十六條 司令官左ニ記列スルノ事件ハ陸軍卿ニ上申シテ命ヲ請ヒ其他ハ之ヲ專決ス但營所司令官士官以上ノ犯罪ハ軍管司令官ニ上申ス可シ

死刑
上長官以上ノ重罪輕罪
士官ノ重罪

第六十七條 司令官其判決ヲ不適當ト思量スル時其專決ノ權アル事件ハ直ニ之ヲ再議セシムルコトヲ得

其專決ノ權ナキ事件ハ意見ヲ附シテ陸軍卿ニ上申ス可シ
第六十八條 陸軍卿ハ司令官ヨリ具申スル所ノ判決ヲ不適當ト思量スル時ハ直ニ司令官ニ下シテ之ヲ再議セシムルコトヲ得

陸軍卿ハ死刑並ニ上長官以上ノ重罪輕罪及ヒ士官ノ重罪ニ係ル者ハ上

奏シテ命ヲ請フ可シ

第六十九條 宣告執行ノ命令アリタル時ハ判士地判士録事法廷ニ臨ミ被告人ヲ出廷セシメテ判士長其宣告ヲ爲ス可シ

第七十條 欠席裁判ニ係ル刑ノ宣告書ハ軍法會議ノ門前ニ揭示ス可シ

第七十一條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其地ノ司令官ハ第六十六條ノ權限ニ拘ハラズ直ニ宣告執行ノ命令ヲ下スコトヲ得

第七十二條 軍團師團旅團ノ長若クハ合圍ノ地ノ司令官ハ輕罪ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ニ戴罪服務ヲ命スルコトヲ得但戴罪服務ノ日數ハ刑期ニ算入セス

其戴罪服務中功績アル者ハ司令官其刑ヲ減免スルコトヲ得

第七十三條 行刑ニ關スル方法ハ陸軍卿別ニ之ヲ定ム

第七十四條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其地ノ司令官ハ時宜ニ依リ此治罪法ノ條目ヲ省察執行セシムルコトヲ得

定買金十錢

明治十七年二月 御届

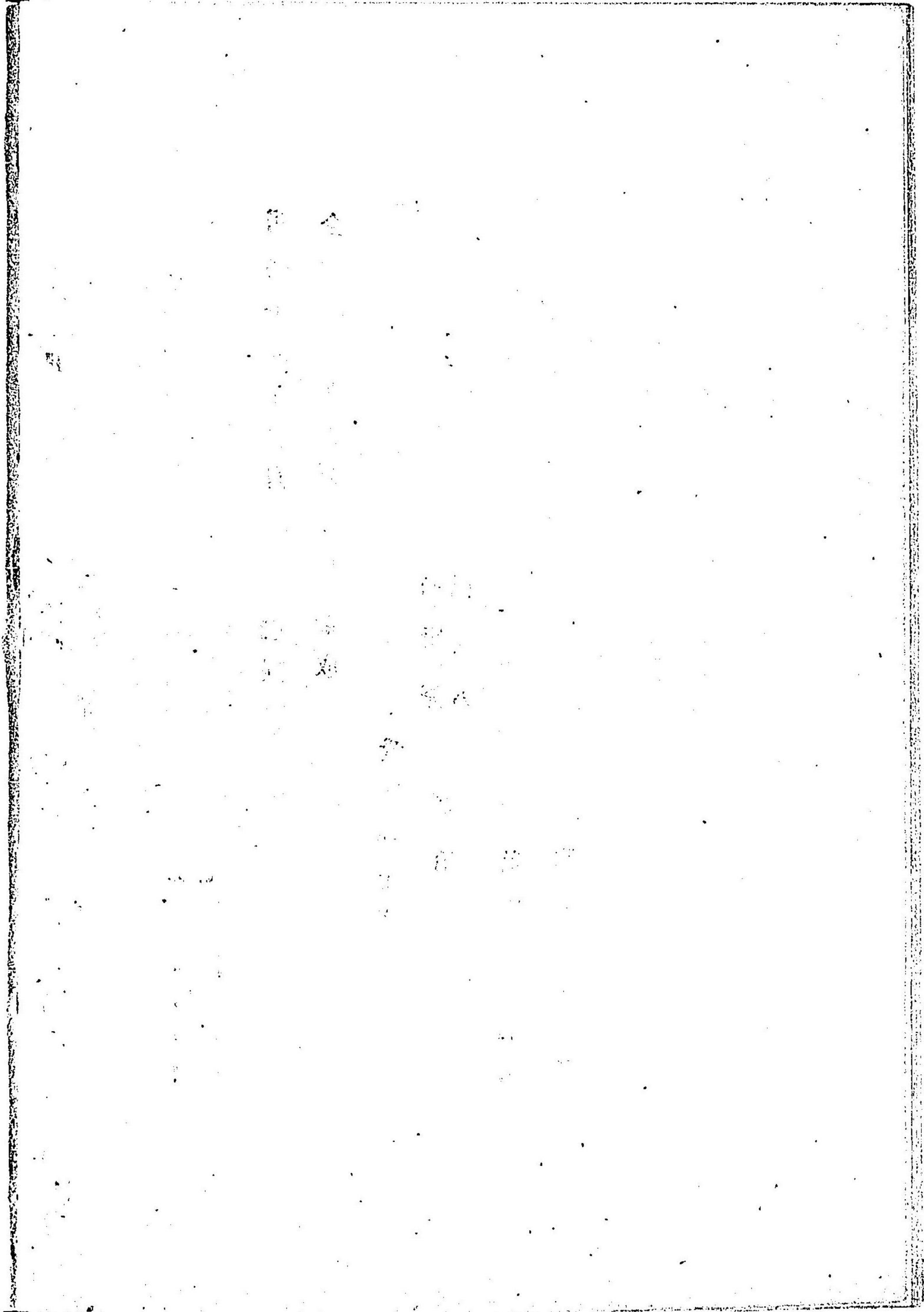
全 年三月 刻成

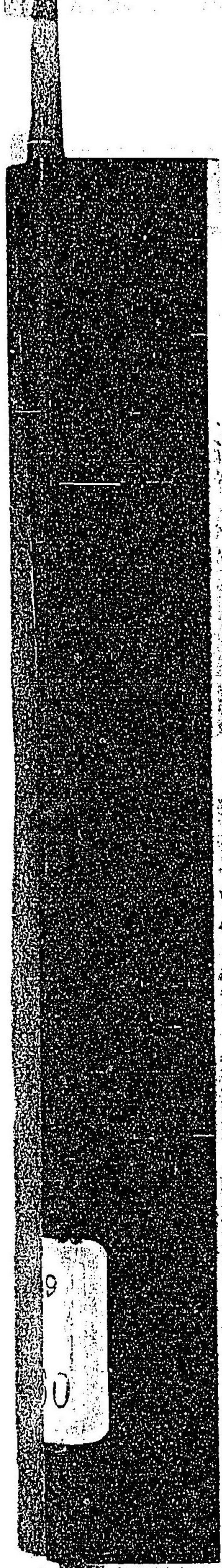
愛媛縣士族

編輯兼 出版人 廣田 德 篤

愛媛縣温永郡西

町二十六番地





9
0

CZ
691
019

陸軍治罪法

国立国会図書館



特
7

036340-000-3

CZ-691-019

陸軍治罪法

広田 徳篤/編

M17

BBQ-0042



